

第1回「セクターモデルと構造災

～目前にあるけれども見えにくい重要問題とどう向き合うか？～

松本 三和夫（東京大学 人文社会系研究科 教授）

キーワード：リスク、構造災、科学社会学、セクターモデル

日時：2016年10月31日（月）16:20-18:30 会場：川内北キャンパス A406

そもそも何をすると科学社会学が成立するのかをずっと考えてきた。そのなかで、セクターモデルの提示、戦前の軍産学複合体と「原子力村」の相似性の研究、強い不確実性下での社会的意思決定、知の失敗の社会学的考察に取り組んできた。現在、福島事故をふまえて科学技術と社会を同じ資格で問い直す「構造災」の理論化を構想中。

International Sociological Association, Research Committee on the Sociology of Science & Technology (RC 23) 評議員を2010年より、日本科学社会学会会長を2012年より務める。

第2回「科学・技術と社会：3.11以後に考えるべき問題」

小林 傳司（大阪大学 理事）

キーワード：不確実性、トランスサイエンス、パブリックエンゲージメント

日時：2016年11月4日（金）16:20-18:30 会場：川内北キャンパス A406

科学技術の進歩が人間の幸福を自動的に増進させる、という発想は失効して久しい。しかし科学技術の威力はやはりすさまじい。だからこそ「何のための科学技術なのか」を真剣に問わなくてはならない。科学技術は専門家に任せるには重要すぎる、ということを実感させたのが3.11の経験であった。科学技術の使い方を「誰が考えるか」という問題に正面から向き合う必要があると思うのだ。

第3回「脱成長時代における科学・技術のあり方」

吉岡 斉（九州大学 比較社会文化研究院 教授）

キーワード：科学技術史、現代史、戦後日本

日時：2016年11月14日（月）16:20-18:30 会場：川内北キャンパス A102

私は、現在は原子力利用の歴史・政策の専門家として知られていますが、もともとは戦後日本の科学技術の社会史について、日本社会そのものの歴史の重要な一環として、総合的な鳥瞰図を描くことを基本的課題としてきました。今もこの課題は私にとって最重要課題のひとつです。今回のセミナーでは、戦後日本の科学技術の社会史について、科学技術の研究開発を統率する官・産セクターの動きを中心として鳥瞰図を描き、それにもとづいて脱成長時代と特徴づけられる21世紀日本の科学技術のあり方について考えてみます。

これからどうするの？
— 科学技術と社会 —

高度教養教育・学生支援機構 連続セミナー二〇一六

第4回「あなたにとって「大学で学ぶ」と行政は無関係？」

原山 優子（内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 議員）

キーワード：高等教育、科学技術イノベーション、第5期科学技術基本計画

日時：2016年12月19日（月）16:20-18:30 会場：川内北キャンパス A102

「高等教育論」、「イノベーション論」などを研究テーマとしていたら、いつの間にか「科学技術政策」に研究対象がシフトし、ついには内閣府で常勤の仕事をするようになっていました。自ら大学で学び、研究してきたことをベースに、行政の現場で科学技術政策を作り込む作業に携わっています。「大学で学ぶ」が行政での仕事に直結している私の事例は特殊ケースとも言えますが、現役の学生である皆さんにとって、行政はまったくかけ離れた存在なのか、という疑問に対して、私の持つ仮説は「No」です。なぜこの仮説に至ったのか、皆さんと議論をしながら、紐どいていきたいと思えます。

第5回「科学技術と未来世代への責任」

野家 啓一（東北大学 教養教育院 総長特任教授）

キーワード：科学哲学、科学技術倫理

日時：2017年1月30日（月）16:20-18:30 会場：川内北キャンパス A102

科学技術は未来社会に正の遺産（利便性や効率性）と共に負の遺産（放射性廃棄物等のリスク）をも残します。福島原発事故に際し、ドイツのメルケル首相が原発可否の審議を「倫理委員会」に委ねた理由もそこにありました。私の専門は科学哲学ですが、今回は科学技術と社会との関係を「世代間倫理」という観点から考察します。

五人の先達が提起する「これから」の難問。
分野を越えて「どうするかを考えた」学生募集。

2016年後期開催/学生対象

主催：東北大学高度教養教育・学生支援機構 学際融合教育推進センター

参加申込み方法
REGISTRATION

東北大学高度教養教育・学生支援機構 HP「イベント申込み」より Web にてお申込みください。
※Web申込み不可の場合は、氏名・所属・連絡先(e-mail)を明記の上、iehe-seminar@g-mail.tohoku-university.jp までお申込みください。

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

※資料準備のため、なるべく事前にお申込みください。当日参加も可能です。

お問い合わせ先
CONTACT

東北大学高度教養教育・学生支援機構事務室 TEL. 022-795-7551 E-mail. iehe-seminar@g-mail.tohoku-university.jp

